

【基本理念】

菅野家族物語

子どもと教職員にとって、保護者と地域にとっても本校を
まなぶところ たのしいところ 力をあわせるところ

「学校」、「楽校」、「合校」とします。



学校教育目標

「ジャンボ！」菅野っ子 ～共に生きる～

『ジャンボ！』に込めた思い

菅野小の子どもたちは、素直で明るく思いやりがあり、まっすぐに育っています。

反面、恵まれた環境であるが故、たくましさ欠缺る点が大きな課題です。

そのような子どもたちがこれから出ていく社会は、10年後どうなっているかもわからない変化の激しい激動の時代です。

どのような社会になっても、自分を見失うことなく、たくましく生き抜いていくために、『心も体もでっかく育て！』『人として大きな人となれ！』との願いを込めました。

さらに、アフリカではあいさつとして使う言葉で、共に生きる上で一番重要な人と人をつなげる言葉であります。

毎日のあいさつにも活用し浸透を図っていきます。

《こんな子どもを育てたい！》

変化の激しい21世紀をたくましく生き抜いていく『菅野っ子』

す すんで考え 挑戦しつづける子
が んばりやで たくましい子
の びのびと 心豊かな子

《こんな教師でありたい！》

教師エージェントを身につけた教師

教育は人にあり、子どもにとって最大の教育環境は、教師自身の姿である

※エージェントとは

「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」

《こんな学校を創りたい！》

子ども・教職員・保護者・地域にとって本校が

まなぶところ たのしいところ 力をあわせるところ

「学校」、「楽校」、「合校」であること

1 菅野小教育の基本姿勢

- (1) 子どもの思いや願いを大切に、自己肯定感を育てる教育活動を展開する。
- (2) 知、徳、体の調和のとれた教育活動を推進し、総合的な人間力の育成を図る。
- (3) 国語科を中心として各教科等における授業の充実を目指す。
- (4) 子ども主体・子ども発信の取り組みを創造する。

総合的な人間力とは、

「豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力」

2 創意と活力ある学校づくり推進計画と令和6年度学校経営の重点との関係

推進計画	令和6年度 学校経営の重点
(1) 探究的な学びの推進	(1) すすんで考え挑戦し続ける子の育成
(2) 言語能力の育成	(2) がんばりやでたくましい子の育成
(3) 学習用端末の活用推進	(3) のびのびと心豊かな子の育成
(4) 体力の向上	(4) 教師エージェントを身につける
(5) 多様な教育的ニーズ	(5) 信頼される開かれた学校づくり

3 創意と活力のある学校づくりの構想と推進の重点

(1) 探究的な学びの推進

重点	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり
具体的な取組	・好奇心に火をつける取り組み(「教える」から「学びを起こす」へ！) ・教科担任制の充実 ・委員会活動の活性化 ・教師エージェントを身につける取り組み

(2) 言語能力の育成

重点	様々な情報を関連づけられる言語能力の向上
具体的な取組	・研究、研修の充実(自ら課題を明確に持って挑戦！) ・「伝えたい！」という思いの喚起(生活科・総合的な学習の時間を中心として) ・外国語科(外国語活動)を中心とした表現力の育成(英語一日デー)

(3) 学習用端末の活用推進

重 点	発達段階に合わせた有効的な活用
具体的な取組	・授業への積極的な導入 ・研修の充実 ・作成物のクラウド上による共有と活用 ・チームズの活用(学級・学年・その他) ・活用の場を広げる(係活動・保護者会等)

(4) 体力の向上

重 点	楽しみながら体力アップ
具体的な取組	・正課体育の充実(学習カードの効果的な活用) ・遊び時間の確保 ・挑戦する機会の創造 ・望ましい生活リズムの確立

(5) 多様な教育的ニーズ

重 点	信頼される学校づくり
具体的な取組	・積極的な情報発信 ・教育相談の充実 ・地域と連携した教育活動の展開(生き方教室・学校を飛び出した学びへ) ・感性を磨く環境づくり(価値ある豊かな体験・多くの人とのかかわり) ・ドラマを創る学級作り ・いじめ撲滅 ・SSRの活用 ・特別支援教育の推進

4 経営の重点

(1) 「すすんで考え 挑戦し続ける子」を育成するために

キーワード: 好奇心に火をつけろ!!!
「教える」から「学びを起こす」へ!!!

① 主体的・対話的で深い学び

- ・子どもにとっての驚きや疑問を課題として、自ら解決しようとする場を設定する。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開をする。
- ・地域の人材や施設を活用し、体験的な活動を重視し、興味・関心の喚起、本物との出会いによる「心のゆさぶり」を積み重ねる。
- ・日常的な表現の場・朝学習(1分間スピーチ、発見カード、短作文、俳句、個人新聞等)充実させるとともに、全校への発表の機会を創り出す。
- ・教科担任制(3年生以上)に可能な限り挑戦し、より深い教材研究の元、授業に臨む。
- ・「こどもアイデアコンテスト」への全校参加

・委員会活動、係活動等での探究的な学びの実践

② 「伝え合う力」の育成

- ・「どうしても伝えたい！」という思いの喚起！
- ・伝え合う場の設定、言語活動の充実、考える時間、ふりかえりの時間を確保する。
- ・研究授業を行い、相互授業参観、研究協議を通して授業力向上を目指す。
- ・**外国語を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。**

(全校英語デー、修学旅行先での挑戦等)

③ 社会の変化に対応し、課題に向き合い解決しようとする能力の育成

- ・「コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということ」を各教科等で体験させ、プログラミング的思考を育成する。
- ・学習用端末の有効的な活用

④ 基本の定着と正しい学習規律の確立

- ・姿勢や挙手、発表のしかた、聞き方、ノートの使い方などの学習規律を確立する。
- ・学習の基礎・基本をしっかりと身につけさせる。

⑤ 指導方法・学習形態の工夫改善

- ・高学年における教科専科、外国語の充実、少人数学習を実施する。
- ・教室での一斉授業だけでなく、学習形態や場を工夫する。
- ・学校図書を活用した多様な読書活動を推進する。

⑥ 指導と評価の一体化

- ・学習評価が評価だけで終わらずに、児童の学習改善につながるようにする。
- ・児童の評価の状況を教師の指導改善につなげていく。

⑦ 学びの環境づくり

- ・ユニバーサルデザインを意識し、教室前面の刺激を少なくする。
- ・教室・特別教室において何がどこにあるか、だれがみてもわかる配置にする。

⑧ 家庭学習の充実

・作業だけの宿題ではなく、主体的に取り組める家庭学習を推進する。

(2)「がんばりやでたくましい子」を育てるために

「健康はすべての基本」「家庭との連携」

① 体力向上の取り組み

- ・正課体育の充実(学習カードは必須)
- ・新体力テストにおける課題に基づく体力向上、健康増進を図る。
- ・外遊びの奨励や体育的行事の充実により、運動の日常化に努める。
- ・陸上部を活かした体力作り
- ・挑戦したいと思う機会の創造(二重跳びリレー等)

② 生活習慣の確立

- ・基本的な生活習慣を身につけるとともに、最後まで粘り強く取り組む態度を育てる。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、生活リズムを整える。

③ 健康教育の充実および感染防止対策の徹底

- ・手洗い、食事中の感染予防(飛沫防止)を徹底し、感染症予防に努める。
- ・毎日の健康観察を確実にを行い、自らの健康管理を意識させる。

④ 学校給食・食育の充実

- ・給食を通して好き嫌いをしないで栄養バランスのよい食事をとる。
- ・栄養教諭による食育指導
- ・食事のマナーを身につけ、食文化の理解を図る。
- ・アレルギー対応を徹底する。

⑤ 安全教育の充実・危機回避能力の育成

- ・交通安全指導や校内での過ごし方の指導を通して危機回避能力を育成する。
- ・避難訓練や防災教育を通して「自分の身は自分で守る」態度を身に付けさせる。

(3)「のびのびと心豊かな子」を育てるために

「自分を大切にすること(自己肯定感)」「他人を認め大切にすること」

① 共に認め合う学級経営・学年経営

- ・学級が安心できる居場所である、温かい人間関係であることが基本である。
- ・様々な活動や裏文化を含め、いろいろな子どもが活躍できる場面をつくる。

② 豊かな人間関係づくりの推進

- ・様々な活動を通し、互いに認め合える人間関係作り、リーダー、フォロアーを育てる。
- ・異学年交流を通して、思いやりや尊敬の気持ちを育てる。

③ 感性を磨く環境づくり

- ・子どもにとって魅力ある自然環境を整える。
(自然とふれあえる環境。探究心を育む環境、季節感を感じられる環境など)
- ・子どもにとって居心地のよい校内環境を整える。
(整理整頓や、補修、清掃など手入れの行き届いた校内環境)
- ・ドラマを創る学級経営
(一人一人の子どもたちが輝く場の設定・教室掲示に足跡を)
- ・読書教育の充実
(読み聞かせの活用)
- ・音楽や子どもの作品あふれる校内環境
(校内放送、校内音楽会、学級・学年掲示、ギャラリーなど)

④ あいさつ・きれいなことばの励行

- ・自分からあいさつする、適切な言葉づかいの指導および環境づくりを推進する。

⑤ 道徳教育・人権教育の充実

- ・自分の生き方を見つめなおし、多様な視点から「考え、議論する道徳」を実践する。
- ・地域の方による全学級「生き方教室」の実施。
- ・全教育活動において、人権教育を推進し、人を尊重する態度を育てる。

⑥ 教育相談の充実

- ・児童アンケートの結果や教育相談を生かし、いじめの実態把握および根絶に努める。

⑦ 不登校対応

- ・不登校の未然防止、はじめの3日間の対応を丁寧に行う。

・SSRの活用&連携

- ・教育相談体制の充実、保護者、管理職、関係機関との連携を図る。

⑧ 特別支援教育の充実

- ・特別支援を要する児童と支援の方法に全校教職員で共通理解を図り、支援を行う。

(4)「教師エージェンシー」を身につけるために

人は「体験から学ぶ・人から学ぶ・本から学ぶ・旅から学ぶ」

① 授業研究の充実

- ・国語科の研究を通し、「伝え合う力の育成」を図る。
- ・相互授業参観や事前・事後検討を行い、よりよい授業づくりにつなげる。

(他の教室は常に出入り自由)

② 校内外の研修の充実

- ・教職員が磨きあう研修や新しく導入される内容の「ちょこっと研修」を計画的に行う。
- ・ベテランから中堅・若手、中堅から若手へ OJT を進める。

③ フレッシュマン研修を通して資質の向上

- ・自分の得意分野をつくり、研修を通して授業力を高める。
- ・1ペーパーでの「ちょこっとアイデア研修」を実施し、情報交換、スキルアップを行う。
- ・相互授業参観を通して、授業を見る目を養い、良いところを取り入れる。

④ 業務の効率化による働き方改革

- ・教育課程の充実とともに、日課や学校行事を整理し、より機能的な時間利用を図る。
- ・共有できるものはすべて活用。

・出退勤時刻を意識した働き方を行い、業務の効率化を図る。

⑤ 教科担任制による専門性の充実

・教科の専門性を高め、授業プランを充実させ、児童の理解をより深める。

⑥ 組織の一員として協働

・教職員のそれぞれの特性を生かしつつ、学校組織として対応し、価値観の共有を図る。

・目標申告を活用し、自らの目標を計画・実践・評価・改善して指導力を向上させる。

⑦ 信頼される教職員

・高い倫理観を危機管理意識を持ち、不祥事防止に努める。

・風通しのよい職場作りに努め、報告・連絡・相談を欠かさず行う。

・情報の共有にとどまらず、認識の共有をする。

(5)「信頼される開かれた学校」にするために

信頼を得るためには「ふだんのコミュニケーション」「早めの情報提供」が大切

① きれいな学校づくり

・校内の環境整備・整理整頓に努め、必要な物を購入し、活用していく。

② 保護者・地域との連携強化

・保護者を味方にし、連携を図りながら子どもを一緒に育てる。

・地域の協力を得て、共に子どもを育てるとともに、地域人材を活用する。

(生き方教室・学校を飛び出した学びへ)

③ 学校だより、各種たより、ホームページ、メールの活用

・学校だより、学年だよりは紙・HPの両方を行う。簡単なお知らせはメールを活用する。

④ 学校公開や懇談会の充実

・授業参観や学校行事において子どもの様子がわかる工夫を行う。

・懇談会で、子どもの様子がわかるように写真、ビデオ、スライド、掲示の工夫をする。

⑤ 学校評価の分析と公表の充実

- ・学校評価について学校だよりを通して結果の公表と分析を行う。
- ・保護者の要望で改善すべき点については改善し、結果を周知する。

⑥ 情報の発信と収集

- ・情報提供は説明責任ととらえる。悪い情報ほど早く知らせ、管理職へも伝える。
- ・ケガやトラブルはできるだけ早く保護者に伝える。子どもを強く指導した場合は納得させてから帰宅させる。
- ・あらゆる手段・場面・機会を通し方針や事実を伝える。

⑦ 学校運営協議会の活用

- ・学校経営に関して保護者・地域からの目で意見をいただき、活用・改善に努める。